

最適ながん医療・がん予防を全ての国民に！

Bring the Best Treatment/Prevention to All People

がんの克服を、全ての国民とともに

Conquer Cancer with All People

国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (令和9年度)

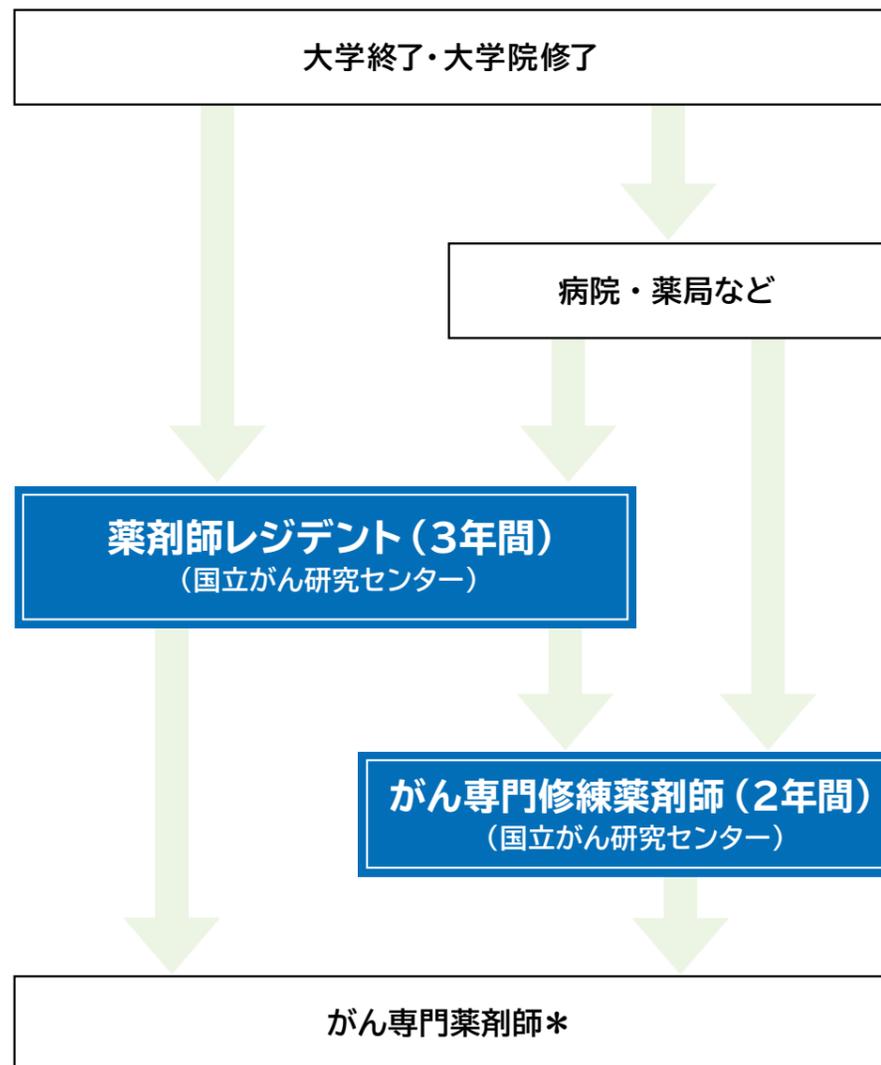


国立研究開発法人
国立がん研究センター

<http://www.ncc.go.jp/>

薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されると同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせました。昨年度に20周年を迎え、次の20年に向けて新たな一歩を踏み出しています。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、18期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、より多くの優れた人材が不可欠です。志ある薬剤師が本制度を志し、挑戦されることを心より期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修, 50症例の経験, 学会発表または論文発表が必要となります。

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界トップクラスのがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例：消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ(Natural Course)が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる各種セミナー、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

研修に関する Q&A

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は令和6年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師(敬称略)	形式
1	1月29日(水)	頭頸部・食道がん	腫瘍内科医	会議室+Web
2	1月30日(木)	精神腫瘍	精神腫瘍科医	Web
3	2月4日(火)	大腸がん	腫瘍内科医	会議室+Web
4	2月12日(水)	小児がん	小児腫瘍科医	Web
5	2月18日(火)	白血病	血液腫瘍科医	会議室+Web
6	2月19日(水)	肺がん	腫瘍内科医	会議室+Web
7	2月25日(火)	緩和医療(薬物療法)	緩和医療科医	会議室+Web
8	2月26日(水)	泌尿器がん(化学療法)①	腫瘍内科医	会議室+Web
9	2月27日(木)	胃がん	腫瘍内科医	会議室+Web
10	2月28日(金)	婦人科がん	腫瘍内科医	会議室+Web
11	3月3日(月)	悪性リンパ腫	血液腫瘍科医	会議室+Web
12	3月5日(水)	造血幹細胞移植、GVHD管理	移植科医	会議室+Web
13	3月12日(水)	乳がん①	腫瘍内科医	会議室+Web
14	3月13日(木)	泌尿器がん(化学療法)②	腫瘍外科医	会議室+Web
15	3月18日(火)	肝・胆・膵がん(化学療法)	腫瘍内科医	会議室+Web
16	3月19日(水)	乳がん②	腫瘍内科医	会議室+Web

【講義形式】

ZOOMによるWEBまたは会議室での対面講義形式+ ZOOMによる講義配信



Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年21期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、20年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3年間のカリキュラムとなっています。2年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、2ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 薬剤師レジデントの規程に基づき、支給されます。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舎(有料)を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。
(月額) 1年目 281,900円 2年目 290,900円
3年目 299,000円

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は1日200件以上に昇り、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間100を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には2年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などならかなの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年1回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていただきますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

薬剤師レジデント・がん専門修練薬剤師



血液／造血幹細胞移植科



消化管内科／頭頸部・食道内科



脳脊髄腫瘍科



腫瘍内科



骨軟部腫瘍科



泌尿器後腹膜腫瘍科



小児腫瘍科



肝胆膵内科



呼吸器内科



緩和ケア

薬剤業務

■ 調剤業務



●入院調剤 ●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



●麻薬の使用法について説明 ●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



●注射薬調剤 ●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



●抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 肝胆膵内科
- 消化管内科
- 通院治療センター
- 呼吸器内科
- 小児腫瘍科
- 緩和医療科
- 骨軟部腫瘍科
- 血液化学療法科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科



■ 医薬品情報管理業務



●医薬品情報の収集・整理 ●治療薬物モニタリング
●情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



●レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



●感染対策チーム：ICT ●褥瘡対策チーム
●栄養管理対策チーム：NST ●外来がん薬物療法患者サポート
●緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



●薬剤師外来 ●外来化学療法ホットライン
●通院治療センター

■ 医療連携



●業連携 ●地域がん治療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

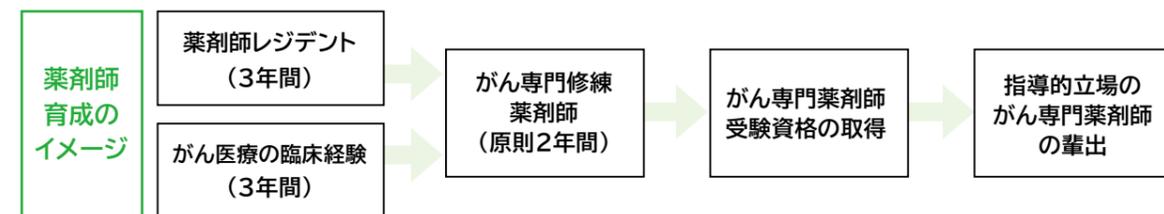
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK／PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK／PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたリバー

ス・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資するrTRを是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践																						
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																						
臨床研究プロトコル作成																						
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																						
臨床研究																						
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																						

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

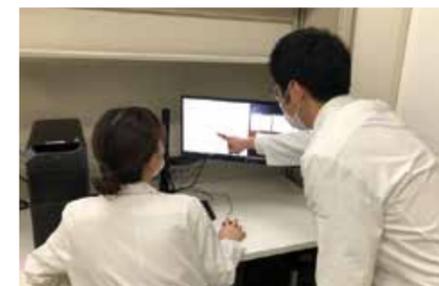
造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間5,000人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる α （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの α が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米ではBMT Pharmacistは難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）



国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目的とした薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膀胱がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に5大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項 (中央病院・東病院)・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成29年3月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和9年3月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数 (予定)

中央病院 7名
東病院 7名

3. 出願手続

I. 願書受付 中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院
人材育成センター専門教育企画室

II. 締切日 中央病院 令和8年4月23日(木) 必着
東病院 令和8年4月8日(水) 必着

III. 必要書類 a. 願書 (所定様式)
b. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)
c. 大学の卒業 (見込) 証明書または大学院修了書の写し (A4判に縮小)
d. 在職証明書 (大学院の在籍証明書可)
e. 成績証明書 (薬学部生のみ)
f. 願書記載資格の証明書 (東病院のみ)

4. 選抜方法

(中央病院) 書類審査、筆記試験および面接試験
(東病院) 書類審査、SPI(Web)、小論文および面接試験

5. 選考日時

(中央病院) 筆記試験および面接試験 (現地) : 2026年 (令和8年) 5月7日 午前9時から
(東病院) SPI : 4月10日 (金) ~ 4/17 (金) Webテスト
小論文および面接 (現地) : 2026年 (令和8年) 5月13日 (水)

6. 選考会場

(中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
(東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

試験日より3週間後頃を予定 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員 (薬剤師)

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

I. 手当 薬剤師レジデント (常勤職員) の規定に基づき支給されます。
II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

(中央病院) 現地開催 : ①令和8年3月27日 (金) 13時~16時 ②令和8年4月6日 (月) 13時~16時
(東病院) オンライン開催 : 令和8年3月18日 (水) 18時~
現地開催 : 令和8年3月26日 (木) 14時~

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail (中央病院) : kyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail (東病院) : kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院)・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和7年3月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1)に相当する学識を有する者で、令和8年4月1日時点で原則として3年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院 1名
東病院 1名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
- 【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室
- 【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院
人材育成センター専門教育企画室
- II. 締切日 令和8年10月下旬 必着
- III. 必要書類 a. 願書 (所定様式)
b. 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
c. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 令和8年11月頃
(東病院) 令和8年11月頃

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

令和8年12月初旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員 (がん専門修練薬剤師)

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 がん専門修練薬剤師 (常勤職員) 手当の規定に基づき支給されます。
- II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
- III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 現地開催 : ①令和8年3月27日 (金) 13時~16時 ②令和8年4月6日 (月) 13時~16時
- (東病院) オンライン開催 : 令和8年3月18日 (水) 18時~
現地開催 : 令和8年3月26日 (木) 14時~

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail (中央病院) : kyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail (東病院) : kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

メッセージ レジデント20期生より



国立がん研究センター中央病院 板垣 安美 (新潟県出身)

私は、研究と治療の両面から患者さんの健康に貢献したいと考え、当院を志望しました。知人をごんで亡くした経験から、大学入学当初より将来はがん治療に携わりたいと考えていました。大学5年次の病院実習では、複数のがん患者さんを担当し、指導薬剤師の先生が患者さんに対して真摯に向き合っている姿を幾度となく目にしました。その姿に憧れを抱き、将来は患者さん一人ひとりに寄り添いながら、がん医療を提供できる薬剤師になりたいと、より強く思うようになりました。

がん専門医療機関である当院では、日々の業務を通して、様々ながん種についての知見を深めることができます。薬剤師レジデントとしての3年間を通して、がん薬物療法に精通した薬剤師になるための基盤を作り、精神的にも満たされたがん医療を提供できるよう、尽力していきたいと考えています。また、研究活動も積極的にを行い、特にがん医療の個別化に携わっていきたくて考えています。



国立がん研究センター中央病院 尾野 光 (東京都出身)

今日のがん医療は、日進月歩で進化を遂げています。新薬の登場や多様な治療法の確立により、私の4人の祖父母が異なるがんで他界した当時と比べて、治療の奏効率は大きく向上していると感じています。

私は、がん領域における薬物療法の専門的知識を深く習得すべく、当院を志望いたしました。当院のレジデント制度は、がん治療に精通した先生方のご指導のもと、基礎から高度な知識・技術に至るまで、幅広く習得できる環境だと感じています。セントラル業務、DI、治験、さらには病棟における臨床業務に携わりながら、研修や研究活動を通じて日々研鑽を積むことができます。今後は、チーム医療の一員として、薬学的知識を十分に備えたうえで他職種と連携し、患者さんの治療に貢献できる薬剤師を目指してまいります。この3年間、ひたむきに前を向いて精進します。



国立がん研究センター中央病院 川崎真加南 (富山県出身)

私は大学の研究室で、がんに関する研究に取り組む中で、がん医療への関心が高まり、大学卒業後も何らかの形でがん領域の研究に携わりたいと考えようになりました。さらに、がん患者さんやそのご家族・支援者が所属する団体と関わる機会を通じて、がんと向き合う方々の声を直接聞いたこと、また、抗がん剤の副作用に苦しみながら亡くなった知人の存在を通して、「少しでも患者さんの苦痛を和らげたい」という思いをもつようになり、薬剤師として治療に関わりたくて考えるようになりました。

臨床の現場で患者さんと直接向き合いながら薬学的介入を行い、そこから得られるクリニカルクエストをもとに臨床研究を進める。この両方に取り組める環境が整っている当院のレジデント制度は、まさに自分の目指す姿と合致していると感じ、志望いたしました。

がん治療に精通した他職種が集う環境のもとで、基礎から専門的ながん治療に至るまでの知識と実践力を身につけ、目の前の患者さん一人ひとりの治療に貢献するとともに、臨床研究を通してがん医療の発展にも寄与できる薬剤師を目指して、日々自己研鑽に努めてまいります。



国立がん研究センター中央病院 越田 開成 (石川県出身)

祖父と母のがん治療を間近で見守った経験を通じて、がん治療に精通した薬剤師となり、治療を受ける患者さんに寄り添いたいという思いが芽生えました。こうした思いから、当院の薬剤師レジデント制度に強く惹かれ、志望いたしました。

がん治療においては、副作用の管理が治療継続の鍵を握る重要な要素であり、その管理に薬剤師が関与する意義は極めて大きいと考えています。

当院では、3年間にわたるレジデント制度の中で、薬剤師の先生方のご指導のもと、セントラル業務や病棟をはじめとする臨床現場での研修を通じて、がん治療に関する幅広い知識と実践力を体系的に習得することができます。さらに、臨床の現場で生まれたクリニカルクエストをリサーチクエストへと発展させ、臨床研究へとつなげる教育体制も整っており、臨床と研究の両面からがん医療に貢献できる薬剤師を目指す上で、理想的な環境が整っていると感じています。

がん治療に寄り添える、専門性と実践力を備えた薬剤師への道のりは、決して平坦ではないと承知しておりますが、20期レジデントとして、一日一日を大切にしながら、精一杯努力し続けてまいります。



国立がん研究センター中央病院 高橋 佳織 (神奈川県出身)

国民の半数ががんに罹患するといわれている現在、がん医療に関する専門知識を持つ薬剤師の重要性はますます高まっています。私は、この領域で「目の前の患者さんに寄り添い、治療を支える薬剤師」として、また「臨床研究を通じて、より多くの患者さんに貢献できる薬剤師」として活躍したいと考え、がん治療・研究のリーディングホスピタルである当院を志望しました。

大学5年次から当院にてアドバンスト実習を経験し、豊富な知識を持ち、患者さん一人ひとりに全力で向き合う薬剤師の先生方の姿を目の当たりにしました。患者さんだけでなく、他の医療従事者からも信頼されるその姿に強く感銘を受け、私も先生方のような薬剤師になりたいと志を新たにしました。

薬剤師レジデントとしての3年間では、がん治療に関わる病院薬剤師としての基礎を確立し、臨床研究の基盤を築きたいと考えています。そして、すべてのがん患者さんに対し、副作用を抑えながら、より高い治療効果を届けられるよう、日々研鑽を積んでまいります。



国立がん研究センター中央病院 高橋 涼 (新潟県出身)

がん領域は、世界的に主要な死因の一つであると同時に、近年、最も著しい進歩を遂げている分野でもあります。この領域では現在も数多くの研究が進められており、新たな治療法や医薬品の開発が目覚ましいスピードで展開されています。私は、こうした医療の第一線で知識や技術を学び続けながら、多くの患者さんを支える医療に携われる点に大きな魅力を感じ、がん医療の道を志しました。

当院のレジデント制度では、臨床にとどまらず研究活動にも積極的に関わることができ、経験豊富な先生方のもと、勉強会や学会発表を通じて継続的に学びを深められる、理想的な環境が整っていると感じています。また、国際貢献にも力を注ぐ当院には海外からの患者さんも多く、多様な価値観や文化的背景を持つ方々と向き合えることも、私にとって非常に貴重な経験になると考えています。

このように恵まれた環境のもと、20期の同期と切磋琢磨しながら、がん医療の発展に貢献してまいります。



国立がん研究センター中央病院 谷アリシア (神奈川県出身)

私は、大学5年次の実務実習の際にがん患者さんの「治療が辛い」という言葉を伺い、薬剤師として患者さんに何ができるのかを考え、そして「寄り添う」とはどういうことかを深く考えさせられました。この経験を通して、がんと向き合う患者さんの力となるためには、確かな知識と経験を身につけ、薬剤師としての専門性を高めていくことが必要不可欠であると実感し、当院のレジデント制度を志望いたしました。

当院のレジデント制度では、1年目にセントラル業務を通じて基礎を築き、2年目以降は病棟業務を経験することで、より実践的な知識と視野を広げることができます。加えて、高い専門性を有する薬剤師の先生方や、さまざまな専門職の先生方とともに働くことで、多角的な学びと刺激を得られる環境が整っている点も大きな魅力であると感じています。

レジデントとしての生活は、私にとって薬剤師人生の第一歩であり、多くの困難にも直面することと思いますが、「患者さんの思いに応える薬剤師になる」という目標を胸に、日々研鑽を積み重ねてまいります。



国立がん研究センター中央病院 橋本 尚樹 (福島県出身)

私は祖母ががん治療を行っていたことからがん治療に関心を持ちました。また、大学5年次の実務実習の際に抗がん剤の副作用に苦しむ患者さんに関わったことから、がん治療において患者さんの生活の質を向上させる一助となる薬剤師になりたいと考え、当院を志望しました。

当院はがん治療において日本を牽引する病院であり、患者さんに応じた高度かつ専門的な医療を提供するとともに治療成績や生活の質向上のための研究が行われています。さらに、当院のレジデント制度ではセントラル業務を通じて基礎固めをすることで、患者さん個々に合わせた薬学的介入を行うことができます。これらの臨床・研究・教育の3つの理念のもと自身の成長につながると思っています。

3年間のレジデント生活を通して先輩方や同期から良い刺激を受け、がん治療への患者さんの安心に貢献できる薬剤師を目指して精進してまいります。



国立がん研究センター中央病院 花房 未来 (兵庫県出身)

私が薬剤師を志したきっかけは、高校生の頃に祖父ががんと診断されたことです。抗がん剤治療に伴う副作用や効果を間近で見守る中で、治療に悩む祖父や家族を支える医療者の存在の大きさを痛感し、「薬で人を支える仕事がしたい」と強く思うようになりました。

大学では、講義や実習を通して、がん医療における薬剤師の重要性を学び、より専門的な知識と技術を身につけ、がん患者さんに寄り添う薬剤師になりたいという思いが一層強まりました。その中で、がん医療の専門性が集約され

た国立がん研究センターでの研修を志すようになりました。

現在、2人に1人ががんになる時代において、医療は高度化・個別化が進み、治療法の選択肢が増える一方で、患者さん一人ひとりに応じたきめ細やかな支援の重要性が高まっています。私は、患者さんご家族の価値観や生活背景に寄り添いながら、適切な治療を選択できるよう、薬剤師としての専門性を活かして貢献していきたいと考えています。



国立がん研究センター東病院 御厨 弘華 (熊本県出身)

私は小学生の頃、祖父をがんで亡くしたことをきっかけにがんに興味を持つようになりました。高齢化や治療薬を含めたがん治療の進歩により、今後ますますがん患者さんへの対応が重要になってくると考えます。日常生活を送りながら、外来で治療を継続されることも多くなっています。1日(半日)体験プログラムで、特に外来での薬剤師の関わりや取り組みを見せていただき、1年目から入院患者さんの担当ができること、さらに3年目には外来同席ができる点に大きな魅力を感じ、東病院のレジデントを志望しました。

入職後は4~5月の初期研修を経て、6月からはセントラル業務等行いながら、診療科ローテーションも始まります。通常業務がありますので、患者さんへの指導は始業前や業務終了後になることが多く大変さもありますが、非常に有意義で充実した日々を過ごしています。研究は大学での卒業研究以外に経験がなく、テーマ設定に苦労しましたが、同期や先輩、スタッフの先生方に相談しながら決定し、進めているところです。

入職前も薬剤師として勤務していましたが、日常業務の中ではガイドラインを読むにとどまり、その根拠となる原著論文や臨床試験まで十分に読み込んでいなかったことを痛感しました。ここでの3年間で得られる経験は、薬剤師人生において非常に大きな財産になると考えています。興味のある方はぜひ一日体験プログラム等に参加してみてください。



国立がん研究センター東病院 安部 祥太郎 (山形県出身)

がん治療に興味を持ったきっかけは、大学時代に複数のがん患者に関わる機会を得たことです。治療導入期の不安、治療中の副作用への苦悩、そして終末期における意思決定などを通じ、がん治療が患者の人生に深く関わる医療であることを実感しました。その経験から、がん薬物治療の導入から終末期まで一貫して患者に寄り添い、専門性をもって介入できる存在になりたいと考えるようになりました。そのため、高度ながん治療を実践している当院を志望いたしました。

当院でレジデント生活を送る中で、専門性が高く豊富な知識を有する先生方から直接ご指導いただける環境は、がん治療を学ぶ上でこれ以上ない教育環境であると実感しています。また、複数の診療科をローテーションできる体制が整っており、症例報告や研究活動を通じて、より深い知識と実践力を身につけることができます。

レジデント生活では忙しい時期や思い悩む場面もありましたが、同期と支え合いながら、また偉大な先輩方からの確かな助言をいただくことで乗り越えることができました。このような人間関係のつながりも、当院の大きな魅力の一つであると感じています。

今後もこの恵まれた環境に感謝し、自己研鑽を怠ることなく、患者一人ひとりに寄り添える薬剤師を目指して努力してまいります。がん領域に関心をお持ちの方には、ぜひ一度当院へ見学にお越しください。



国立がん研究センター東病院 矢口 柊 (茨城県出身)

私はがん専門薬剤師になり、患者さんに専門的な知識で安心していただく薬剤師を目指しているため当院を志望しました。

がん専門薬剤師を目指すきっかけとなったのは5年次の薬局実習です。実習先の薬局に在籍していたがん専門薬剤師の先生が、患者さんだけでなく同僚の薬剤師からも信頼され、がん領域の相談を受け専門的な知識で対応している姿が印象的であったため、がん専門薬剤師を目指したいと思いました。

日本のがん患者数の増加、がん医療の高度化に対応するため、がん専門薬剤師の必要性が高まってきていると感じています。そのため高度ながん医療について重点的に学ぶことができる当院で、知識・技術の習得に励みたいと考えています。

そして専門的な知識を身につけ、医療に貢献するだけでなく、実習時の私が思ったよう、誰かに目指してもらえようような薬剤師になるのが目標です。

薬剤師レジデント1年目の業務は混注・注射・調剤などのセントラル業務と診療科業務の2つに分かれており、それぞれの部署で日々学ぶことがあります。特に診療科業務においてスタッフの薬剤師の方にレジメンチェックをしてもらう際に最もがん医療について学べると感じています。業務・研究・自己研鑽を並行して行うことは多忙で自分の未熟さを感じることもありますが同期と切磋琢磨していけるのがレジデントの良さだと思います。

がん医療・レジデントに興味がある方は一度見学にお越しください。皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています。



国立がん研究センター東病院 宮崎 琴音 (富山県出身)

私は病院実習で隣がんの患者さんに関わり、レジメン選択から支持療法、緩和ケアまで幅広く学ぶ中で、がん臨床の難しさとやりがいに強く惹かれました。また、臨床で得た学びをエビデンスとして発信するためには研究力が不可欠であると感じ、臨床と研究の両輪で成長できる環境を求めてレジデントを志望しました。

当院ではセントラル業務に加えて1年目から診療科をローテーションし、各分野に精通した先輩薬剤師の指導のもと臨床業務に携わります。自分の未熟さを痛感する日は沢山ありますが、患者さんや医師からの相談に貢献できた時は大きなやりがいを感じます。3年目には外来診察に同席し、副作用や服薬状況の情報を医師へ直接提供することで治療に参画します。医師のすぐそばで薬剤師として患者さんを支える経験ができることは、がんセンターのレジデントならではの大きな魅力の一つだと思います。

研究面でもレジデント期間に国際学会発表や英語論文執筆に挑戦する先輩方の姿に刺激を受けています。私自身も2年目から大学院に進学することが決まり、業務で感じた課題を研究で深め、患者さんに還元できる薬剤師を目指しています。

レジデントの生活を楽だとは言えませんが、がん医療に熱意ある同期や先輩方に囲まれて研鑽を積むことができる恵まれた環境とだと思います。少しでも興味があれば、ぜひ一度見学にお越しください。皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。



国立がん研究センター東病院 平間 辰之介 (埼玉県出身)

私が国立がん研究センター東病院を志望した理由は2あります。1つ目は大学の研究活動です。在学中に小細胞肺癌のレジメンCBDC+ETPに免疫チェックポイント阻害剤を併用した際の好中球減少程度をパソコンで解析する機会がありました。そこで抗がん剤治療に関して興味を持ち、がんレジメンが多岐にわたることを知りました。がんに関してもっと勉強したい欲が強まり志望いたしました。

2つ目は患者さんへの医療貢献のためです。がん治療に関して勉強したい裏側には、患者さんに対してベストのアプローチができるようになりたいという思いがあるからです。知識の引き出しを増やし、患者さんが薬のことで困った際には、最も近いところで寄り添い、希望を与える存在なることが今後の目標です。

今入職してから感じるのは、周りの存在の大きさです。今私の周りには熱い思いを持った同期、先輩方が沢山います。同じ志を持つ仲間がいることで日々業務を奮闘できています。落ち込んだり悩んだりする時に助けてくれる方がいるところもとても心強いと思います。先輩方からは勿論、多くのことを吸収できます。その分、日々の業務はフルマックスで動かなければならず、苦しいことの方が多いかもしれません。しかし、その苦しさの先にはここでしか味わえない貴重な経験が待っています。そして全ては患者さんのためです。周りへの感謝を忘れず、熱い気持ちを持った方と共に働けることを願っております。



<http://www.ncc.go.jp/>